

小澤征爾が見守ってきた若きチェリスト、 宮田大のドキュメント番組放映決定！ タイトル：音楽のいのち繋げる 現場から（仮題）

放送日：2012年3月10日 19時～20時54分（3月11日から変更になりました）

放映局：BS朝日

制作：テレビマンユニオン プロデューサー：大原れいこ ディレクター：浅野直広

小澤征爾がここ数年期待をこめて大切に見守っている若きチェリストがいる。
宮田 大 25歳。 現在弾いているチェロは小澤の恩師、斎藤秀雄先生の遺品だ。
このドキュメント作品は、4年にわたり宮田の喜びや悲しみと共に歩み、日本とヨーロッパでの精進の日々を描いている。
この間、小澤が病いと闘い、本格復帰がままならぬ一方で、宮田は名実ともに世界から注目される若手チェリストへと急成長していった。
そして、今年1月念願の小澤との共演がようやく実現の日を迎えた。
小澤は、若きチェリストに、音楽のいのちを全身全霊で伝えていく。

収録曲目の一部

ハイドン：チェロ協奏曲第1番（小澤征爾指揮水戸室内管弦楽団公演より）

ラフマニノフ：ヴォカリーズ（宮田大「ファースト」CD発売記念公演より）

ヴィヴァルディ：チェロ協奏曲（ヴェネチア、フェニーチェ劇場公演より）

水戸での収録風景(2012年1月16日)



写真左：オーケストラとの協演前の打ち合わせ風景
小澤征爾からアドバイスを受ける宮田 大



写真右：リハーサル風景
水戸室内管弦楽団との共演（ハイドン：チェロ協奏曲第1番）



宮田 大は2009年、チェロ部門の国際音楽コンクールの最高峰と言われるパリ市主催の第9回ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールで優勝し、世界からも注目される存在になったが、今回全公演（水戸、東京、倉敷）でロストロポーヴィチが1990年と92年に水戸芸術劇場で使用したチェロ台で演奏した。

宮田 大の2時間ドキュメンタリー番組

音楽の いのち繋げる 現場から (仮)

【番組の企画意図】

小澤征爾さんがここ数年期待をこめて大切に見守っている若いチェリストがいます。
宮田 大、今年25歳になりました。

昨年一月、自らの手で宮田 大の本格デビューを期して、小澤さんは水戸室内交響楽団の定期公演のソリストとして彼を起用しました。

曲はハイドンのチェロ協奏曲。

しかし、直前になって小澤さんの体調が思わしくなく、公演は急遽キャンセル。

病床のマエストロから即、電話がありました。「来年は必ずやるから、待っていてください」。

小澤征爾さんが病いと闘っているここ数年は、宮田 大にとって大きな飛躍の時期でした。

09年、日本人で初めてロストロポーヴィチ国際チェロコンクールに優勝して以来、舞台は世界に広がり、初のCDも完成。

小澤さんの本格復帰がままならぬ一方で、宮田 大は名実ともに世界から注目される若手チェリストへと急成長していきました。

テレビマンユニオンは、2006年、宮田 大の桐朋学園在学中から折に触れてその演奏を収録していましたが、2008年以降はジュピターカルテットの一員として海外での活動も含めて本格的な撮影を続けて今に至っています。

学生時代の仲間たちとカルテットを組み、互いに学びあいつつ世界を目指した日々……。そんな中で、コンクールの覇者となり、進むべき道を真剣に模索しながら、やがてソリストとして一本立ちしていく青春の軌跡。

その年月の積み重ねの先にはいつも、小澤さんとの約束のステージが大きな到達点として、北極星のように道を照らしていました。

4年にわたる若いチェリストの喜び、悩みを辿りながら、イタリア、ドイツでの精進の日々を重ねあわせて、今年一月に行われた、小澤征爾さんとの共演の舞台に向かって集約していく2時間のドキュメンタリー番組企画です。

制作：テレビマンユニオン

プロデューサー：大原れいこ

ディレクター：浅野直広

宮田 大 (みやた だい) チェロ

1986年栃木県宇都宮市に生まれる。

第74回日本音楽コンクールチェロ部門第1位、同時に増沢賞（全部門を通じて最も印象に残った演奏）、徳永賞（チェロ部門最優秀賞）、岩谷賞（聴衆賞）を受ける。第6回齋藤秀雄メモリアル基金賞、ドイツでは方伯モリッツ・フォン・ヘッセン賞を受賞。

09年、4年に一度開催され、チェロ部門の国際音楽コンクールの最高峰と言われるパリ市主催の第9回ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールで日本人として初の優勝という快挙を成し遂げる。

10年第20回出光音楽賞を受賞。第35回江副育英会奨学生。

出身地の栃木県での受賞歴も華やかで文化部門では初めての栃木県知事特別賞を受賞、栃木大使に任命される。

桐朋学園音楽部門特待生を受け、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースを首席で卒業。'09にジュネーヴ音楽院を卒業、現在はクロンベルク・アカデミーでフランス・ヘルメルソン氏に師事している。

これまでにチェロを宮田豊、倉田澄子の各氏に、室内楽を東京クワルテット、原田禎夫、原田幸一郎、加藤知子、今井信子、フェルメールカルテットのリチャード・ヤング、ジュネーブ音楽院でガボール・タカーチ＝ナジの各氏に師事する。また、ミケランジェロカルテット、ジュリアードカルテット、ゲバントハウスカルテット、バルトクカルテット、上海カルテットなどに指導を受ける。Jupiter Quartet Japanのメンバーであり、CHE TRIOでも活動した。

16歳で小澤征爾指揮で協奏曲を演奏。サイトウ・キネンオーケストラに参加している。室内楽では、リン・ハレル、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシュメットや、日本を代表する演奏家と共演する。

ソロでは第22回〈東京の夏〉音楽祭、クロンベルグ・チェロ・フェスティヴァル、武生国際音楽祭、ベートーヴェン音楽祭（ボン）、イタリアのクレモナで開催された第1回「ヴィルトゥオーゾ」に招待される。サンクトペテルブルグでは数回音楽祭に参加し、日本の曲を初演する。

協奏曲をパリ管弦楽団、フランクフルトシンフォニエッタ、栃木県交響楽団、セントラル愛知交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、関西フィルハーモニー交響楽団等と共演している。

初CD：2011年12月5日にリリース

宮田 大/FIRST

ポッパー：ハンガリア狂詩曲

ドビュッシー：チェロ・ソナタ

R.シュトラウス：チェロ・ソナタ

ラフマニノフ：ヴォカリーズ

リムスキー＝コルサコフ：くまんばちの飛行

宮田 大 (チェロ)

柳谷良輔 (ピアノ)

CD: MF25501 定価：2,800円 (税込)

レーベル: molto fine (モルトフィーね)

録音：軽井沢大賀ホール 2011年4月21-22日

故齋藤秀雄所蔵の名器テストーレ (1746年) 使用

